

来週の「売り物」記事はこれ



2012年10月12日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

大型ルポシリーズ「S (ストーリー)」

チベットの若きリーダー

中国が最も恐れる男 朝刊 14日(日)



危険な男——。中国政府がそう見なすのが、チベット亡命政府首相のロブサン・センゲ氏=写真=です。チベット仏教最高指導者のダライ・ラマ14世の政治引退に伴い、首相に就任しました。ダライ・ラマのようなカリスマのない分、44歳の若きリーダーは、たぐいまれな行動力で中国政府を揺さぶろうとしています。いま、チベット難民の支持を集めようとしているセンゲ氏ですが、その一族の歴史をたどると、チベット人の「抵抗の物語」が浮かび上がってきました。米ソ冷戦下、CIAによって訓練された亡命チベット人による中国への潜入工作。そして、取材の過程で飛び出した「沖縄米軍基地」……。知られざる亡命チベット人たちの「抵抗の秘史」に迫ります。



日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

いじめサインにどう気づく？

くらしナビA面16日(火)



大津市立中学の生徒が自殺して1年が過ぎた。いじめと自殺の関連に多くの親が敏感になり、警察への被害届も相次いでいる。だが、子供は屈辱感や自責からいじめを親には打ち明けにくい。また、誰かをいじめていた子がある日いじめられる側に回ることも多い。どのようなサインに気づき、学校とどう連携すればいじめの深刻化を防げるか、専門家に聞いた。

恒例！ 吉祥寺猫祭り くらしナビC面16日(火)

「猫」をキーワードに街の活性化を目指す「吉祥寺猫祭り」が、今年も東京都武蔵野市で1カ月間にわたって開かれている。吉祥寺駅周辺のカフェやレストラン、雑貨屋、ショッピングセンターが参加し、猫に優しい街をアピール中だ。街猫の不妊手術の啓発や、飼い主のいない猫の譲渡会も開いている。猫と人間の共生の取り組みを取材した。



男のおしゃれ

くらしナビB面 18日(木)



読者モデルを若々しく変身させる大好評「男のおしゃれ」。今回のモデルは55歳の会社員。ダイエットで14キロの減量に成功し、合わなくなった服を一新したいと自ら応募した。おじさん変身させ隊は、肩のラインにピッタリ合ったオリーブグリーンジャケット、パープルのニットセーター、白地のシャツをチョイスし、都会的なイメージを演出。さて、どう変身したか……。

北朝鮮の首都・平壤（ピョンヤン）

— 平壤紀行 — 夕刊で連載

北朝鮮の首都・平壤（ピョンヤン）。秋色濃い、この町を点描する「平壤紀行」を夕刊で連載します。毎日新聞記者はこのほど北朝鮮に滞在し、市民の素顔を垣間見ることができました。新指導者、金正恩氏＝写真右＝の体制が確実に浸透する一方、欧州から輸入した遊具で遊ぶ家族連れや、イタリアンレストランで食事する市民ら取材しました。厳しい国家運営が続く北朝鮮において、首都の風景はほんの一部でしょう。しかし、今後、起こりうる変化の一端かもしれません。この国の最新事情を写真とともに紹介します。



「原発ゼロ」政策は何処へ

夕刊特ワイド面 15日(月)、16日(火)



民主党政権が2030年代に原発ゼロを目指すと発表してからわずか半月後、電源開発が大間原発（青森県）の建設再開に踏み切った＝写真。原発を減らすはずなのに増えてしまうのはなぜか？ 「核燃料サイクル政策との併存という矛盾を抱えている」というのは植田和弘京都大教授。国内の原発で出てきた使用済み核燃料は核燃サイクルで再処理するか、国内に保管場所を探すしかない。両者とも展望がない状況を1回目で解説する。2回目は、もし自民党が政権をとったら「原発ゼロ」政策はどうなるかを予測する。安倍晋三自民党総裁は「30年代にゼロとする考えはとらない」と明言しているが、核燃料サイクルこそ自民党が積極的に進めたい政策だと指摘する専門家もいる。2回にわたり瀬戸際に立つ「原発ゼロ」を描く。